

東邦運輸倉庫株式会社

<http://www.toho-twc.co.jp>

ゴミ分別から地域環境活動まで参加し、震災復興にも貢献



本社ビル外観

■事業内容：倉庫業、運送業、通関業、損害保険代理店

■代表者：代表取締役 黒川 久 氏

■本社所在地：宮城県仙台市宮城野区日の出町3丁目4-21

■創立年：1952年

■従業員数：194名

■認証レベル：エコステージ1（2005年5月取得）

主な環境活動項目

- (1) 省エネルギーの推進
- (2) 省資源の推進
- (3) 廃棄物の低減
- (4) 地域環境活動への参加
- (5) 環境教育の推進

背景・課題

環境活動の必要性に気づき、指導と評価が一体のEMSへ

東邦運輸倉庫様は、宮城県仙台市を拠点に物流サービスを展開する会社です。20年前から共同配送などの仕組みを構築し、トラックの積載効率や配送効率を向上させ、結果としてCO2削減に貢献してきました。しかし、2004年当時、ゴミ分別や再資源化など職場における環境意識はまだ浸透せず、取引先からの提案で環境活動の必要性を認識しました。そこで、指導と評価が一体となっている点に注目し、エコステージの導入を決定。東北の物流業者で最初のエコステージ認証を取得するという目標を掲げ、グループ関連会社3社と一緒に取り組みを開始しました。



■配送拠点となる構内風景

活動内容

活動の結果を徹底的に検証し、従業員教育にも活かす

ゴミ分別による廃棄物の削減、ストレッチフィルムの有価物化（圧縮処理）、省エネ活動、環境教育を中心に取り組んでいきました。毎月の環境取り組みの分析については、省エネチーム、廃棄物・省資源チームの二つに分けて行われ、その結果をEMS委員会で報告して検証。月次の検証結果は四半期ごとにまとめられ、従業員教育に使われました。2008年からは、物流品質の向上が破損事故を抑え、破損で発生する廃棄物の削減にもつながると考え、QMS委員会と連携した検証もスタートしました。2009年からはNPO法人と連携し、蔵王の植林活動のための毎月の奉仕作業に参加するようになりました。



■食堂でもゴミの分別を徹底

効果

エコドライブが定着、震災復興にもいち早く貢献

ゴミ分別活動が根付き、廃棄物のリサイクル率も年々向上し、2012年度はリサイクル率87%を目標に取り組みました。車両会議の積み重ねにより、車内の整理整頓とエコドライブが定着、物流品質も向上しています。連絡車両については、順次エコカーに代替し、燃費は毎年改善目標をクリアしています。地域の環境活動団体への参加も、社会貢献意識を高める良い機会になっています。また、2011年の東日本大震災では、倉庫2棟が全壊、倉庫3棟が半壊という甚大な被害を受けましたが、従業員全員の努力により保管商品の整理、救援支援物資の扱いを行い、同年6月には環境活動への活動再開を果たしています。



■蔵王の植林活動に参加

今後の計画

被災した新仙台港支店の再建は、2013年10月の完成を目指して進み、LEDなどの節電照明器具の導入が予定されています。また、開催するたびに従業員が遠隔地から集合していた月例会議を徐々にWeb会議に切り替え、移動時間や燃料消費を削減する取り組みを進めています。

担当評価員からのメッセージ

同社は、グループ企業（4社、社員394名）で「環境配慮型企業」を目指し、環境経営、東北No.1を目標に活動してきました。仙台地区2社が東日本大震災の大打撃を受けましたが、「負けるな東北 負けるな宮城 負けるな東邦」を合言葉に、すばやく復興に着手し、現状復帰されました。今後さらに全社一丸となって取り組むことで、環境経営のレベルがより高まります。